学校給食だより　秋田っ子給食　NO－453
公益財団法人秋田県学校給食会

にかほ市 地元で栽培、給食に　ササニシキおいしい

農薬や化学肥料を使わずに育てたササニシキを味わう児童

にかほ市は「有機農業の日」（12月8日）に合わせ、市内の全7小中学校の給食で農薬や化学肥料を使わずに育てたササニシキを提供した。象潟小学校（菱刈宏記校長、301人）では児童が地元産のイチジクの甘露煮などで漬け込んだ鶏もも肉などと一緒に白米を味わった。

にかほ市では2020年、電子部品大手のTDK（東京）や市内の農業法人・権右衛門など4社と環境保全型スマート農業に関する連携協定を締結。雑草の発生を抑えるロボット（アイガモロボ）を活用し、農薬や化学肥料を使わない有機栽培の実証実験に取り組んでいる。

8日は、象潟町の国天然記念物「九十九島」周辺で今秋収穫されたササニシキ計130㌔を提供。象潟小では校内放送で有機栽培について説明したほか、校内にアイガモロボを展示して実証実験の概要を紹介した。

5年生のクラスでは、口いっぱいに白米を頬張り、お代わりの列に並ぶ児童の姿がみられた。伊藤慧人さんは「普段食べているお米より粘り気があって一粒一粒がおいしかった」、氏家結叶さんは「農家の人の苦労が分かった。感謝して食べたい」と話した。

市内八つの保育園・こども園には計75㌔のササニシキを贈った。（大谷好恵）

（令和7年12月18日（木）秋田魁新聞から一部抜粋）